



研究分野別学会ではできないつながり

京都支部・立命館大学／社会保障 長谷川千春

アメリカと日本における医療保障システムや無保険者問題について、実証的な研究をしています。グローバル化の進展と産業構造の変化、労働編成の再編のなかで、皆保険体制をとらないアメリカの医療保障のあり方がどうなっていくのか。「オバマケア」といわれる連邦レベルでの改革、そして保険法や医療扶助を管轄する州・地方レベルでの改革の動きもとらえつつ、主に雇用との関係に関心をもって研究しています。ただ、近年は子育てに追われ、なかなか調査にも出られずに、細々と研究を続けている状況です。

JSA には、京都大学大学院経済学研究科に進学した際に、先輩に紹介されて加入しました。大学院生のころは、新入会員の獲得のための講演会企画などを細々とやっている感じでした。

関わりが深まったのは、女性研究者・技術者委員会の委員となってからです。「ジェンダー」というものをあまり意識せずこれまでやってきていたのが、子どもが生まれて初めて、自らの内側にある「ジェンダー意識」に気づかされ、また身近な人の母親役割への期待に気づきました。家事・育児と教育を成り立たせるのがやっとなので、研究からますます遠のくことに、諦めの思いとともに、この「しんどさ」をどう考えたらよいのか、と悩みました。その時に、女性委員会での企画やメンバーの諸先輩方とのお話が励みとなりました。社会科学分野の方は少ないですが、研究分野を超えたつながりはとても貴重だと思っています。